

2.3 言語学習と言語教育

2.3.1 CEFR で取り上げる範囲

- できる限り明示的に目的と対象だけではなく、学習者が要求された方法と実際に得られた結果を知らせること。

2.3.2 CEFR の果たす役割

- CEFR は包括的(Comprehensive)で、明確(Transparent)で、一貫性(Coherent)がある。
- 外部に開かれ(open)、非固定的(dynamic)、非教条的(non-dogmatic)である。
- CEFR の本来の役割は、言語学習・教育課程に関係している仲間全てが、自分たちの拠り所としている理論的基盤と実際上の行程をできる限り明示的にかつ明確に提示して見せるよう奨励すること。
- この役割を果たすために使用可能な種々のパラメータ、カテゴリー、準備、尺度を用意している。

2.3.3 各章の主題

- 第4章と第5章では、主に言語使用者および学習者が当該言語の他の使用者とコミュニケーションをとるために必要な行為とその能力を取り上げる。
- 第6章は、必要とされる能力を開発する方法とその開発を容易にする方法に関連するものである。そして、複言語主義的能力の開発とその性質も検討する。
- 第7章では言語使用と言語学習において与えられる課題の役割を詳しく見る。
- 第8章では言語教育と教育政策の多様化にとって複言語主義的能力の開発とその性質が意味することをいささか詳細にわたって探求する。

2.4 言語能力評価

- 第9章ではこの CEFR が言語熟達度の評価に関して果たす役割を注意深く見る。
- CEFR の利用法については3つ挙げている。
 1. テストや試験内容の特定化のために
 2. 学習対象の到達度の基準を決めるために
(話すあるいは書く言語行為との関連、また教師、仲間あるいは自身による継続的評価との関連)
 3. 異なった資格認定方法を横断する形で、現存するテストや試験の比較が可能になるようにそれらの熟達度レベルを記述するために
- 評価の過程を決定する際にしなければならない選択事項の数々をいささか詳細に取り扱う。
- 評価の実行可能の問題を論じる。
- 利用者にとって役に立つ点
 1. 公の試験シラバスに対し、より深い洞察力をもって、また批判的な態度で接するのに役立つ。
 2. 教師養成に関わるものにとっては、教師の養成および研修際に、評価に関する諸問題に対する意識を教師たちに生じさせる。
 3. 学習者は今まで以上に自己評価を行うよう求められている。(自分の学習経歴や習ったことは言語でのコミュニケーション能力を報告する。)
- ヨーロッパ言語学習記録帳(European Language Portfolio)が現在導入されている。
- 職業上、テスト開発や公的試験に関する行政や実行に責任のあるものは、より専門化された試験管のための Guide for Examiners を参考にすることができる。